

経営比較分析表（令和4年度決算）

徳島県 吉野川市

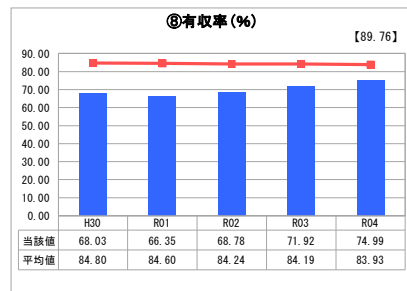
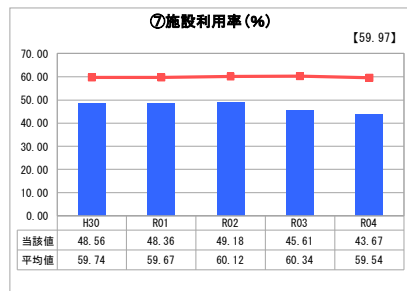
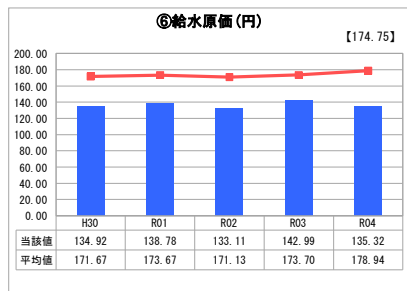
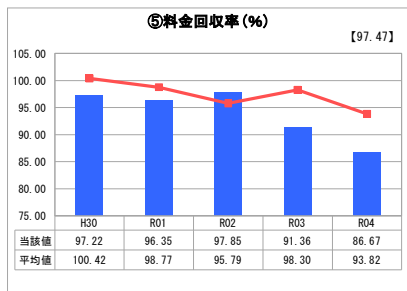
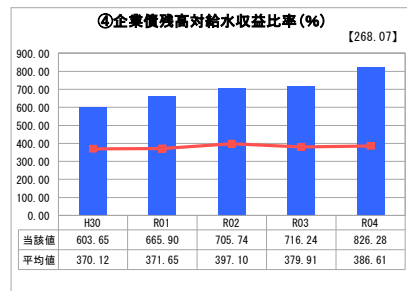
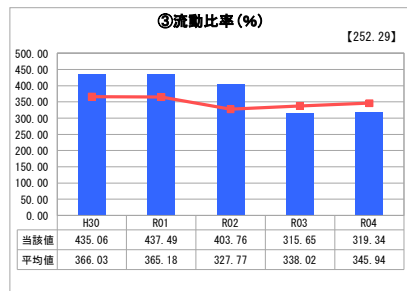
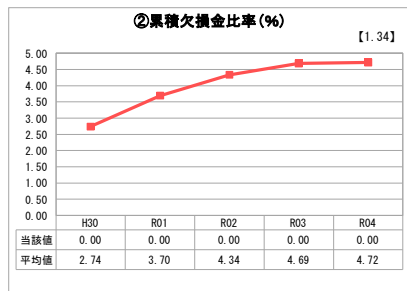
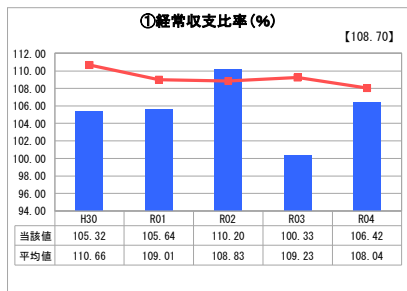
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	57.44	98.65	2,500	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
38,872	144.14	269.68
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
38,038	70.94	536.20

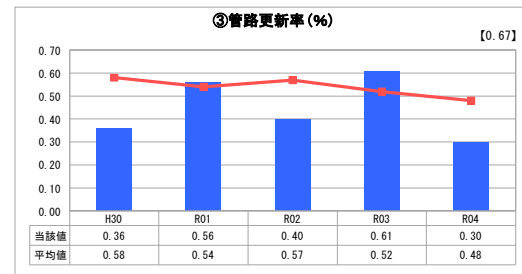
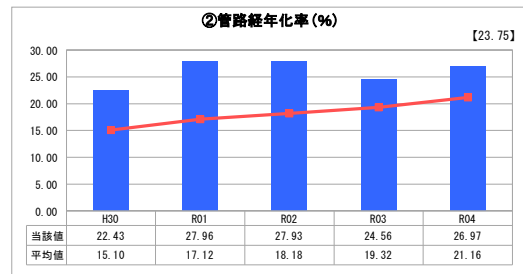
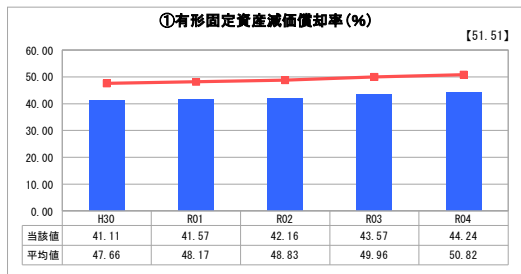
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【健全性】
 ①経常収支比率・③流動比率が100%を超えていること、②累積欠損金が生じていないことから、一定の健全性は保たれている。
 ⑤料金回収率がR4年度に悪化しているのは、水道料金減免施策によるものだが、料金回収率が100%を下回る状況は変わらず、給水に係る費用が給水収益で賄っていない状況が続いている。また、④企業債残高対給水収益比率は、類似団体の平均値を大幅に上回る状態が続いており、将来への企業債返済負担の大きさを示している。
 【効率性】
 ⑥給水原価は、類似団体の平均値を下回っている。⑦施設利用率は、近年の水需要の減少に伴い低い値で推移しており、施設の統廃合について検討する必要がある。⑧有収率は、類似団体の平均値を下回っているものの、効率的な管路更新や漏水調査の定期的な実施による効果が現れている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②管路経年化率とも上昇傾向にあり、老朽化が進んでいる。一方、③管路更新率は、類似団体の平均値を下回る傾向にあり、管路更新計画に基づく整備を進める必要がある。

全体総括

給水収益が減少する中で管路の更新を進めており、更新費用を企業債に頼らざるを得ない状況が続いている。管路更新計画に基づく効率的な整備を行いつつ、令和5年度から実施する「吉野川市水道事業ビジョン」「吉野川市水道事業経営戦略」の見直しの中で、安定的な財源の確保について検討していく必要がある。